

# クロミカルム<sup>®</sup>錠 5mg | クロミカルム<sup>®</sup>錠 20mg

## Clomicalm<sup>®</sup>

犬が、飼い主から引き離されたとき、過度の不安やストレスによって1)過剰な吠え、2)不適切な排便・排尿、3)破壊など、犬にとっても飼い主にとっても問題となる行動をとることがある。これを犬の「分離不安」と呼ぶ。本症を示す犬は、普段飼い主に対し、過度の愛着を示す傾向にある。分離不安を治療するためには、一般的に犬の過度の愛着を断ち、飼い主との適切な関係を作るための「行動療法」と、それをより早く、効果的に治療するために、「薬物療法」を併用することが薦められる。クロミカルム錠はこの分離不安の治療補助剤として開発された。主成分はクロミプラミン塩酸塩で、脳内の伝達物質セロトニンの取り込みを阻害する作用を持つ。分離不安を呈する犬では、不安に関与するセロトニンの脳内での作用が弱い傾向にあると言われ、クロミカルムを投与することにより、選択的にセロトニンの取り込み阻害をし、セロトニンの作用を高め、不安状態を取り除くと考えられている。

## 【成分及び分量】

1錠中にそれぞれ次の成分を含有

品名	クロミカルム錠5mg	クロミカルム錠20mg
有効成分	クロミプラミン塩酸塩	
含量 (1錠中)	5mg	20mg

## 【効能又は効果】

犬：飼い主から離れることに起因する分離不安（飼い主のいない間の破壊、吠えの行動など）に不適切な場所での排便、排尿行動）治療の補助

## 【用法及び用量】

通常、体重1kg当たりクロミプラミン塩酸塩として1~2mgを1日2回経口投与する。1回量は下表に従って投与すること。なお、本剤は行動療法の補助として投薬すること。また、本剤は体重1.25kg以下又は生後6ヵ月末満の犬に投与しないこと。

体重	クロミカルム錠5mg	クロミカルム錠20mg
1.25~2.5kg	1/2錠	
>2.5~5kg	1錠	
>5~10kg		1/2錠
>10~20kg		1錠
>20~40kg		2錠

## 【使用上の注意】

## (基本的事項)

## 1. 守らなければならないこと

## (一般的な注意)

- ・本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- ・本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- ・本剤は犬以外に使用しないこと。
- ・本剤は定められた用法・用量を厳守すること。

## (取扱い及び廃棄のための注意)

- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。
- ・誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかねないこと。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

## 2. 使用に際して気付けること

## (使用者に対する注意)

- ・誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受け、三環系抗うつ剤を飲んだことを伝えること。人が過量に誤飲（以下のような症状）した場合には、特異的な解毒剤は知られていない。

## 人が過量に誤飲した場合の症状：

症状は通常服用30分~2時間後に高度の抗コリン作用を主流として出現する。中枢神経症状（眠気、昏睡、運動失調、情動不安等）および心症状（不整脈、頻脈等）その他に呼吸抑制、チアノーゼ、嘔吐、発汗等。

## (犬に関する注意)

- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- ・本剤投与により嘔吐する場合は少量の餌と一緒に与えることによって改善される。
- ・行動療法は次の要領で実施すること。

## (1)家庭での実施要領

- 1) 犬と飼い主との関係は、全て飼い主の意志で始めなければならない。例えば、飼い主の意志により犬と遊んだり、触れたり、餌をやったりすること。

犬の方から、例えば、遊ぼうとか、身体的接触を持とうとしても無視すること。

- 2) 飼い主が例えは、鍵や鞄を持ったり、コートを着たりする外出前の一連の動作によって犬が不安状態になり分離不安が引き起こされている場合もある。そこで、普段飼い主が家庭について外出しない場合においても鍵や鞄を持ったりコートを着たりして、外出するふりをして、これらの飼い主の一連の動作に慣れさせること。

## (2)外出時の実施要領

- 1) 飼い主は外出する約30分前から、犬に注意をむけてはならない。例えば、犬と遊んだり、犬に触れたり、餌をやったり、話し掛けたり、犬を見ることさえもない。

- 2) 飼い主は外出時に、犬の注意を引き付けておくもの（例えは飼い主のにおいが染み込んだもの、犬のおもちゃ、嗜むもの等）を犬に注意をむけないように残しておこうとよい。

## (3)帰宅時の実施要領

- 1) 飼い主は帰宅しても、犬が静かになってくつろぐまで、犬と遊んだり、犬に触れたり、餌をやったり話し掛けたりしない。犬の方から、例えば、遊ぼうとか、身体的接触を持とうとしても無視すること。

- 2) 飼い主の外出中に犬が家の中で破壊的行動をしたり、汚物で汚していくても犬を叱らない。

## (専門的事項)

## ①対象動物の使用制限

- ・クロミプラミンおよび関連の三環系抗うつ剤に対して過敏症の犬に使用しないこと。

- ・犬において本剤の過量投与(50mg/kg、12ヵ月連続投与)により精子の低形成が見られたので、繁殖用の雄犬には投与しないこと。

- ・妊娠中及び授乳中の雌犬に対する本剤の安全性は確認されていない。

## ②重要な基本的注意

- ・獣医師は本剤を1回に過量に飼い主に与えないこと。また1週間に1回の程度で行動療法が適切に実施されていることを確認すること。よって、本剤の1回の投与は1週間分を超えないこと。

- ・問題行動を示す犬が全て分離不安ではないので、獣医師は慎重に分離不安の診断を行うこと。

## 【製品情報お問い合わせ先】

株式会社ビルパックジャパン

〒541-0047 大阪市中央区淡路町1-3-14

TEL 0120(550)700

【包装】プラスチックボトル 30錠入り

## 【使用期限】

外箱、ボトルに記載

## 製造：

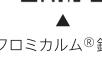
Elanco France S.A.S.(フランス)

## 製造販売業者：

株式会社ビルパックジャパン

〒541-0047 大阪市中央区淡路町1-3-14

承認指導書番号	5mg	20mg
販売開始	30動葉第2981号	30動葉第2982号
再審査結果	1999年7月	2006年10月



クロミカルム<sup>®</sup>錠 5mg  
添付文書情報はこちら



クロミカルム<sup>®</sup>錠 20mg  
添付文書情報はこちら

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>)にも報告をお願いします。